2016年度　専任教員の教育研究業績一覧表

天使大学　大学院　助産研究科

目 次

近藤　潤子……1
園生　陽子……4
今崎　裕子……7
津田　万須美……9
神谷　整子……12
高室　典子……14
山本　詩子……17
小林　由希子……19
佐々木　恭子……21
齋藤　慎子……23
三浦　恵津子……25

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　特任教授	氏名　近藤 潤子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・助産学概論	2004年04月01日 ～ 現在に至る	毎時、授業や討論の終了時、数分間、該当時のキー概念を記述させて、個々の学習の理解と学習の特徴を捉え学習指導を行う
・助産哲学・倫理Ⅰ	2004年04月01日 ～ 現在に至る	毎時、授業や討論の終了時、数分間、該当時のキー概念を記述させて、個々の学習の理解と学習の特徴を捉え学習指導を行う
・国際助産学Ⅰ	2004年04月01日 ～ 現在に至る	毎時、授業や討論の終了時、数分間、該当時のキー概念を記述させて、個々の学習の理解と学習の特徴を捉え学習指導を行う
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・徳島大学病院キャリア形成支援センター：エキスパート助産師育成研修	2011年06月27日	助産倫理と助産管理：我が国の助産師の定義、助産師の理念、助産師の倫理綱領、助産師の役割責務について講じ、国際助産師連盟による助産師の国際倫理綱領と比較検討し、高度専門職業における倫理の重要性を強調した。
・全国助産師教育協議会中部地区研修会	2011年11月23日	助産教育カリキュラムを考える。
・日本保健医療大学　教員研修	2012年02月10日	研究計画について質的研究方法を用いた論文の査読、研究計画の作成、科研の申請、科研の運営管理について。
・八戸短期大学　看護学科宣誓式講演	2012年05月12日	近未来の看護を目指して　今学ぶべきこと,看護の定義,職業の定義,職業選択と意味,看護の未来。予測,看護の発展,人間性重視,専門分化の進行
・徳島大学病院キャリア形成支援センター：エキスパート助産師育成研修	2012年06月27日	助産倫理と助産管理：我が国の助産師の定義、助産師の理念、助産師の倫理綱領、助産師の役割責務について講じ、国際助産師連盟による助産師の国際倫理綱領と比較検討し、高度専門職業における倫理の重要性を強調した。

・JICA（国際協力機構）札幌国際センター集団研修　　「母子保健B（英語圏アフリカ地域）」コース	2012年10月02日	英語圏アフリカ５カ国から派遣された助産師10名（助産教員9名、臨床助産師1名）を対象に、わが国での助産実践家を育成する専門職大学院での助産師教育の実際、教育内容や方法を踏まえた助産師の研修プログラムを立案、研修員が自国の母子保健における取組みの参考になるよう、助産院での自然な出産の紹介・見学を含み、ICMの助産教育に関する情報等を活用した研修を行った。
・全国助産師教育協議会中部地区研修会	2012年12月08日	國際助産師連盟のモデルカリキュラムアウトラインの内容を紹介した。
・金沢医科大学　看護学部FD研修会	2013年02月22日	私立大学の特性を生かした看護専門教育のあり方：教育の質を確実なものにするために、私立大学の特徴、私立学校法の改正、大学改革、プロフェッションとは、教育の質保証について説明し、建学の精神、大学の社会的責任について論じた。
・Gold Coast Hospital Queensland,Australia	2013年03月18日	Midwifery Education in Japan：ゴールドコースト病院の助産師、看護師の為に日本の看護し、助産師教育について紹介した。
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
・母乳育児支援に焦点を当てた産褥・新生児期の教授・学習計画の立案とその内容の助産学的、教育学的考察	共著	2012年05月01日	日本助産学会誌 日本助産学会第2回（第26回）学術集会集録	金澤　貴子 （亀田医療技術専門学校　助産学科）	79～79

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2008年04月01日 ～ 現在に至る	日本私立看護系大学協会　会長
2008年04月01日 ～ 現在に至る	“Midwifery” 国際編集顧問
2009年04月01日 ～ 現在に至る	日本助産学会　代議員（2012年～専任査読委員）
2011年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護科学学会　監事
2012年05月01日 ～ 2012年05月01日	第26回 日本助産学会学術集会　特別講演「大切なもの」（渡辺和子）座長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　園生 陽子	大学院における研究指導担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・「健康教育論Ⅰ」	2004年04月01日 ～ 現在に至る	成人学習や自己効力感など健康教育の理論を踏まえ、クラス実践の中で得られた多様な調査データをPPTスライドなどで紹介。VTRやPPスライドなどの視聴覚教材を活用、出産の経過を紹介する中で、ボディイメージ・心身の変化・対処法を順序性を持って、対象者にわかりやすく配置したクラスを、科目担当者の教員自らが実施することでモデリング役割を果たし、また助産師がファシリテーター機能を果たす参加型クラスなどを具体的に紹介している。院生は、クラスの教育内容・教材と共に学習者の認識や学習活動を記述できる「健康教育分析表」を用いて、臨床での実際のクラスを視点をもって観察学習・評価すると共に、自らがクラスを運営するにあたっての課題をレポートする。
・「健康教育論Ⅱ」	2005年04月01日 ～ 現在に至る	原則３名で、実習病院の母親学級または両親学級で１回のクラスを企画・運営する。実施に先立って学内演習で５～６名が一組となって、出産教育内容を分担してマイクロティーチングを行い、学生同士で評価する。更に、各実習施設の出産などの状況を踏まえたクラスを企画、その際に「健康教育計画表」を用いて指導案を立案、教材の作成から運営・評価までの一連の流れを経験する。実施までに、指導案を立案、その後リハーサルをVTRで撮影して教員と共に客観的に評価・修正を行って本番を迎える。実際に運営したクラスも同様にVTRに撮影、終了後に現場での指導者・教員から評価を受けると共に、実施したメンバー間でVTRを客観的に評価した「健康教育分析表」と、院生がクラス運営についての各自の課題をレポート、提出する。両科目は修了生からも、役だった講義のベスト３となる評価を受けている。
2　作成した教科書、教材、参考書		
・母性看護学　１．妊娠・分娩　第2版（医歯薬出版株式会社、第２版、第７刷）	1994年10月10日 ～ 2012年10月20日	分娩の学習への援助の出産教育（99～104頁）、および分娩第Ⅰ期～分娩直後の援助（258頁～267頁）を担当している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・JICA（国際協力機構）札幌国際センター集団研修 「母子保健B（英語圏アフリカ地域）」コース （コースリーダー）	2012年10月02日	英語圏アフリカから派遣された助産師（2012年5か国10名の助産教員9名と臨床助産師1名、及び2013年６か国９名の助産教員）を対象に、わが国での助産実践家を育成する専門職大学院での助産師教育の実際、教育内容や方法を踏まえた助産師教員向けの研修プログラムを立案、研修員が自国の母子保健における助産教育に取組む際の参考になるよう、助産院での自然な出産の紹介・見学を含み、ICMの助産教育に関する情報等を活用した研修を行い、コースリーダーを務めた。研修生からは、概ね良い評価を得た。

・第27回 日本助産学会学術集会（長崎） ﾌﾟﾚｺﾝｸﾞﾚｽ 主催：NPO法人日本助産評価機構 組織として第３者評価を受ける意義を共有しよう！	2013年03月21日	専門職大学院として2008年に続き、2013年に第2回目の分野別認証評価を受けた立場から報告。USAの助産教育に必須な認証評価の現状とその意味づけについても紹介した。
・JICA（国際協力機構）札幌国際センター集団研修 「母子保健B（英語圏アフリカ地域）」コース （コースリーダー）	2013年09月24日	英語圏アフリカから派遣された助産師（2012年5か国10名の助産教員9名と臨床助産師1名、及び2013年６か国９名の助産教員）を対象に、わが国での助産実践家を育成する専門職大学院での助産師教育の実際、教育内容や方法を踏まえた助産師教員向けの研修プログラムを立案、研修員が自国の母子保健における助産教育に取組む際の参考になるよう、助産院での自然な出産の紹介・見学を含み、ICMの助産教育に関する情報等を活用した研修を行い、コースリーダーを務めた。研修生からは、概ね良い評価を得た。
・JSME（全国助産師教育協議会） ファーストステージ研修 講師	2014年03月18日	公益法人全国助産師教育協議会主催、助産教育者育成プログラムで本学が専門職大学院であることから看護系大学では我が国初となる、分野別認証評価（日本助産評価機構、2008年・2013年の2回で「適合」を受けた）の教育評価の受審について説明した。2015年の講義では、分野別認証評価が助産教育機関の質や修了生の就職に大きく影響するUSAにおける助産教育の認証評価の意味づけも紹介した。また同時に、2年課程で行う健康教育論の教育展開についても紹介した。
・JSME（全国助産師教育協議会）コロキアム(研修) 「将来の助産師教育を考えるーあるべき卒業時の到達像と教育ー」	2015年03月14日	公益法人全国助産師教育協議会の将来構想委員会が中心に、全国の６ブロックで同企画で実施している研修会。北海道・東北ブロックの地区長として本学で運営を担当、合わせて教育現場からの話題提供者の役割を果たした。また、３児の母である院1年生が、母親の立場からのスピーカーを務めた。
・JSME（全国助産師教育協議会） ファーストステージ研修 講師	2015年03月21日	公益法人全国助産師教育協議会主催、助産教育者育成プログラムで本学が専門職大学院であることから看護系大学では我が国初となる、分野別認証評価（日本助産評価機構、2008年・2013年の2回で「適合」を受けた）の教育評価の受審について説明した。2015年の講義では、分野別認証評価が助産教育機関の質や修了生の就職に大きく影響するUSAにおける助産教育の認証評価の意味づけも紹介した。また同時に、2年課程で行う健康教育論の教育展開についても紹介した。
４　その他教育活動上特記すべき事項 ・第26回 日本助産学会学術集会(札幌) 会長 会長講演「助産力を高める！」 ー実践から生まれ、実践を育てる教育・研究ー	2012年05月01日 ～ 現在に至る	国内では助産師教育の単位が23から28単位へ、教育期間も６か月から1年以上に改正された。一方、ICMでは助産教育期間を最低限18か月とした国際基準が採択された。そうした中、専門職である助産師に第１義的に求められる実践能力（助産力）、「コンピテンシー」を育成する教育のあり方を、専門職大学院での２年間をかけた助産師プログラムを中心に紹介、臨床現場・研究者と協力の必要性について言及した。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					
専門職大学院における助産教育の評価	共著	2012年05月01日	日本助産学会誌　Vol.25, No.3	大石時子、平山恵美子、高橋弘子、本宿美砂子、今崎裕子、津田万寿美、宮本涼子、園生陽子	77頁～77頁
助産学実習における学生の理解－産褥期の助産学実習	共著	2012年05月01日	日本助産学会誌　Vol.25, No.3	森兼眞理、園生陽子	150頁～150頁
専門職大学院における助産教育の評価－修了生の上司ｲﾝﾀﾋﾞｭｰから－	共著	2014年03月23日	日本助産学会誌　Vol.27, No.3	本宿美砂子、津田万寿美、園生陽子、今崎裕子、高橋弘子、大石時子	127頁～127頁
専門職大学院における健康教育能力育成の試みから第１報 -2年課程の助産教育における教育論の展開法-	共著	2015年03月28日	日本助産学会誌　Vol.28, No.3	園生陽子、長島貴久代、佐々木恭子、井波千穂子、三浦恵津子	443頁～443頁
専門職大学院における健康教育能力育成の試みから第2報 - 助産教育者として健康教育指導技術をﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟする意義-	共著	2015年03月28日	日本助産学会誌　Vol.28, No.3	長島貴久代、井波千穂子、三浦恵津子、佐々木恭子、園生陽子	444頁～444頁
専門職大学院における健康教育能力育成の試みから第3報 臨床と共に考える出産教育 -	共著	2015年03月28日	日本助産学会誌　Vol.28, No.3	佐々木恭子、三浦恵津子、井波千穂子、長島貴久代、園生陽子	445頁～445頁

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2009年05月01日 ～ 2011年05月31日	日本助産師会北海道支部長
2012年05月01日 ～ 2012年05月01日	第26回 日本助産学会学術集会　招聘講演「The Value of Professional Midwifery Partnerships: ICM & JAM」（J.Thomｐson）座長
2013年05月02日 ～ 2013年05月02日	第27回 日本助産学会学術集会 鼎談「日本助産学会の歴史と展望を考える」演者
2014年03月21日 ～ 2014年03月21日	第28回 日本助産学会学術集会(長崎) 日本助産評価機構主催プレコングレス「組織として第３者評価を受ける意義を共有しよう」演者「専門職大学院として2回目の認証評価（分野別）を受けた立場から」
2014年06月21日 ～ 現在に至る	公益社団法人　全国助産師教育協議会　北海道東北地区 地区長

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　今崎 裕子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	2008年05月01日 ～ 現在に至る	・分娩進行時の児頭回旋シュミレーションの目的で、紙にて骨盤入口部の平面と児頭の関係を表したものを作成し、マタニティサイクル助産ケアⅡ（出産期）の講義（演習）に使用（院生にも配布）
	2010年05月01日 ～ 現在に至る	・学生が繰り返し分娩介助法の練習とイメージができるように介助の手順をファントームを用いて、デモンストレーション場面を録画したＣＤを作成。
	2011年04月01日 ～ 現在に至る	・助産教育分野のマタニティサイクル助産ケアⅢ（産褥・新生児期）の単位認定のためのモジュール学習課題の再構成
	2011年05月01日 ～ 現在に至る	・自己学習用分娩介助法のＣＤの内容を再構成し、学生が理解しやすい様専門用語の修正とＣＤの枚数を追加。
	2011年05月01日 ～ 現在に至る	・マタニティサイクル助産ケアⅢ（産褥・新生児期）の講義での使用を目的にアセスメントモデルを再構成。
	2012年10月01日 ～ 現在に至る	・マタニティサイクル助産ケアⅢ（産褥・新生児期）の家庭訪問モデル（紙上事例）を自己学習とロールプレイのために再構成
	2013年05月01日 ～ 現在に至る	・マタニティサイクル助産ケアⅡ（出産期）の講義・実習での使用目的で、アセスメントモデルの再構成
	2014年05月01日 ～ 現在に至る	・分娩介助練習用ＣＤの再構成と新らたなＤＶＤ作成の検討
2　作成した教科書、教材、参考書		
	2008年04月01日 ～ 現在に至る	マタニティサイクル助産ケアⅡ（出産期）の講義での使用目的で、アセスメントモデルを作成。
	2008年04月01日 ～ 現在に至る	助産教育分野の開設に伴い、助産薬理学Ⅰの単位認定のためのモジュール作成

	2010年05月01日 ～ 現在に至る	・学生の自己学習用分娩介助法のＣＤ作成
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
専門職大学院における助産師教育の評価		2012年05月01日	第26回日本助産学会学術集会発表		
産後1ヶ月から1年頃までの子育て中における母親の気持ちー子育て支援サロン参加者のインタビューからー		2013年05月01日	第27回日本助産学会学術集会発表		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2009年11月01日 ～ 現在に至る	大学近隣に住む、産後1ヶ月以降、1年頃までの母子を対象に子育て支援サロン「アンジェ」を開催
2011年04月01日 ～ 2012年05月31日	第26回日本助産学会学術集会　実行委員長
2012年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道看護研究学会　研究奨励賞推薦委員
2012年10月01日 ～ 現在に至る	北海道思春期研究会幹事　　（2015年度　第31回北海道思春期研究会　世話人）

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　津田 万寿美	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	授業Ⅰ講目にプレテストを実施、院生の知識を把握し、その後の授業展開を修正した。授業後にはポストテストを実施し、授業評価の一部とした。（ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ケアⅠ）
	2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	妊産褥婦の食事および離乳食の学習のために調理実習を取り入れた。（妊産褥婦と乳幼児の栄養）
	2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	子育て支援。虐待予防等の母子保健問題における臨床助産師と地域（保健師・行政機関間）との協同の意義を理解するために、地域保健師の特別講義を組んだ。（母子保健行政・財政論）
	2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	病院における看護管理の理解を深めるため、実習施設をモデルに、組織図、理念、目標、産科外来・病棟の環境、人的資源、物的資源の活用と管理システム等を調べ考察のうえレポート提出とした。（助産管理Ⅰ）
2　作成した教科書、教材、参考書	2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	妊娠期助産ケアの事前学習に用いるモジュール形式の教材：学習ガイドを作成し、配布した。自己学習ノートの教員提出を数回設け、その都度院生個別に学習方法等の助言・指導を行った。（ﾏﾀﾆﾃｨｻｲｸﾙ助産ケアⅠ）
	2013年04月01日 ～ 2015年03月31日	マタニティサイクル独立助産実習の要項の作成を行った。（マタニティサイクル独立助産実習）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年05月01日	「専門職大学院における助産教育の評価」第26回日本助産学会学術集会口演発表
4　その他教育活動上特記すべき事項	2012年06月01日 ～ 2012年06月01日	新生児蘇生法「専門」コースインストラクター認定取得

	2012年10月01日 ～ 2012年11月30日	JICA地域別研修アフリカ英語圏「母子保健（B）」研修員の受け入れ
	2013年10月01日 ～ 2013年11月30日	JICA地域別研修アフリカ英語圏「母子保健（B）」研修員の受け入れ

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2003年09月01日 ～ 現在に至る	日本災害看護学会誌査読者
2008年05月01日 ～ 2011年05月31日	日本助産師会北海道支部書記
2009年04月01日 ～ 2013年03月31日	独立行政法人国立病院機構北海道医療センター附属札幌看護学校　科目「災害看護」（非常勤講師）
2009年04月01日 ～ 現在に至る	日鋼記念看護学校　科目「保健医療論」中の『災害看護』（非常勤講師）
2011年04月01日 ～ 現在に至る	北海道医薬専門学校看護学科　科目「災害看護」（非常勤講師）
2011年04月01日 ～ 現在に至る	一般社団法人北海道助産師会副会長
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	新生児蘇生法「専門」コース講習会にてインストラクター担当（2回）
2012年05月01日 ～ 2012年05月31日	日本助産学会企画委員・実行委員

2012年10月01日 ～ 2012年11月30日	JICA地域別研修アフリカ英語圏「母子保健（B）」の研修内容・時間割の企画作成、講師・視察施設等交渉・調整を担当
2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	新生児蘇生法「専門」コース講習会にてインストラクター担当（2回）
2013年04月01日 ～ 2015年03月31日	「助産師と法律」講義（釧路赤十字病院産科病棟、対象：助産師）
2013年06月01日 ～ 2013年06月30日	新生児蘇生法「専門」コースインストラクター養成講習会にて補助クオリティマネージャー担当
2013年10月01日 ～ 2013年11月30日	JICA地域別研修アフリカ英語圏「母子保健（B）」の研修内容・時間割の企画作成、講師・視察施設等交渉・調整を担当
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	新生児蘇生法「専門」コース講習会にてインストラクター（2回）
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道（保健福祉部子ども未来局）とのタイアップ事業「親づくりセミナー」の企画と実施
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道（保健福祉部子ども未来局）とのタイアップ事業「にんしんSOSほっかいどう」のポスター・ステッカー作成協力
2015年12月04日 ～ 現在に至る	北海道（保健福祉部こども未来局）次代の親づくり事業の一つとして、男女共学高校で院生が主体となって企画した性教育を実施した。担当責任者として調整・フォローを行った。

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　神谷 整子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
⑤写真でわかる助産技術　インターメディカ	2012年03月01日 ～ 2012年03月31日	妊産婦に対する診察技術ｐ10～33
⑥新版　助産師業務要覧（第２版）実践編　日本看護協会出版	2012年11月01日 ～ 2012年11月30日	第５章　助産師に必要な技術　７．育児支援技術ｐ212～217
⑦「命によりそうということ」　家の光協会	2013年02月01日 ～ 2013年02月28日	
⑧助産学概論　青海社	2013年03月01日 ～ 2013年03月31日	第３章助産師の活動　1.場所別助産師の活動　３助産所 p.48～52
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項	2001年04月01日 ～ 現在に至る	みづき助産院での学生及び研修生の受入れ

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　高室 典子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
・独立助産演習	2012年04月01日 ～ 現在に至る	助産所や家庭における妊娠出産・産褥期の助産技術演習を担当 自立した助産ケアに対しての理解を深める演習を行ったり、または、伝承したい技術やケアについてのコンセプトを紹介し、討議し共有する。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・札幌市厚別区子育て講座	2012年06月07日	厚別区民の子育て中の母親、並びに子育て支援者向けの講演会 タイトル「いきいき子育てで、ママも元気に！」いのちの誕生の場面に立ち会う助産師からの提言。子育ての楽しみ方などを講演した。参加人数78名
・全道保育教育協議会	2012年07月01日	タイトル「楽しくいのちをはぐくむために」北海道の保育士、親の向上を目指した会で、乳幼児に大切にしたいこどもとのかかわり方について講演　参加人数218名
・北海道助産師会　研修会	2012年07月14日	研修会「母子保健指導者研修会」で母親の自己決定を促す支援について、根拠と方法、重要性を講義。　参加者　43名
・北邦学園札幌自由の森学園　教職員研修	2012年08月14日	保育士・幼稚園教諭のための研修「いのちの大切さ」について講義
・札幌丸井三越百貨店　講演会	2012年09月15日	マタニティの女性向けの講演会　　「妊婦の骨盤セミナー：腰痛もちにならないための講座　参加者20名
・札幌市厚別区役所　研修会	2012年09月26日	市民、特に女性を対象にタイトル「女性が輝くとき」で講演。参加人数56名
・札幌市中央区役所　子育て講座	2012年10月14日	子育て中の親に対する講演会「子どもがいるから楽しめる」子どもを持つ親の子育てを応援する内容
・札幌市東区役所　子育て講演会	2012年10月17日	タイトル「楽しくいのちをはぐくむために～乳幼児における養育者のかかわり」 北海道新聞「講演会」で記事掲載となる。参加人数　80名

・北海道助産師外来能力向上研修会	2012年10月20日	助産師外来業務担当者（助産師歴5年以上）への講義。妊婦の腰痛に関してのエビデンスと対応についての講義
・JICA（国際協力機構）札幌国際センター集団研修	2012年10月24日	英語圏アフリカ５カ国から派遣された助産師10名（助産教員9名、臨床助産師1名）を対象に、北海道助産師会についての講義を行った。北海道の特徴や位置関係などを踏まえ、歴史、現状などを説明。
・北海道助産師外来能力向上研修会	2012年11月11日	同上の研修で「母乳栄養に関してエビデンスと技術」を講義
・北海道助産師外来能力向上研修会	2012年12月15日	外来における妊婦の自己決定について」を講義、方法論を演習
４　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

2006年04月01日 ～ 現在に至る	日本助産学会　評議委員
2010年04月01日 ～ 現在に至る	一般社団法人　北海道助産師会会長
2010年04月01日 ～ 現在に至る	札幌市男女共同参画事業検討委員

2010年04月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生協会理事
2010年04月01日 ～ 現在に至る	北海道母性衛生学会理事
2011年07月10日 ～ 2011年07月10日	ジャパンセラピスト協会発足記念特別講演「いのちのはじまり」
2011年10月07日 ～ 2011年10月08日	東北大震災復興支援イベント「つながろう北海道」（主催：北海道CIUB）発起人
2012年02月01日 ～ 現在に至る	北海道HTLV-1母子感染対策協議会審議員にてHTLV-1に関する各協議・審議の委員として貢献（年3回の委員会）
2012年05月01日 ～ 2012年05月01日	第26回 日本助産学会学術集会　シンポジウム座長
2013年01月21日 ～ 2013年01月21日	札幌市　厚生委員会に出席。「産後支援事業の現状」を陳情・発表

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　教授	氏名　山本　詩子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 助産管理論Ⅱ	2007年04月01日 ～ 現在に至る	講議内容に、助産所実習に必要な業務項目と共に、助産所機能評価及び分娩介助ガイドラインを含め、ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄスライドを活用して講義を展開した。独立助産実習において、実習先の助産所機能評価の視点を持って実習することで、助産所全体を把握でき、実践に役立つように工夫した。2010年度授業評価では、熱意のある教員から、リアリティをもった助産院の紹介で、わかりやすさ、知的な刺激が得られたなど、満足との評価が8～9割を占めた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 実習生・研修生の受入れ	1996年04月01日 ～ 現在に至る	助産院数の多い神奈川県において、中心となる助産院のひとつを運営。全国から大学院3ヵ所、大学7ヵ所、助産師・看護学校6ヵ所の教育機関から計46回にわたって助産・看護学生、更に病院・助産院・助産職能団体からの助産師を含め、2010年度には延べ836名の実習・研修生を受入れている。

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　准教授	氏名　小林 由希子	大学院における研究指導担当資格の有無　（無）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2012年10月16日 ～ 現在に至る	北海道社会福祉協議会乳児担当保育士等研修会講師 「育児初期の母親に寄り添う支援」				
2014年 ～ 現在に至る	札幌国際大学　保育士資格取得特例講座講師 「保健と食と栄養」				

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　講師	氏名　佐々木 恭子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　助教	氏名　齋藤　慎子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
母性看護学概論	2003年04月01日 ～ 2011年09月30日	リプロダクティブヘルス/ライツの概念をもとに，女性の一生を通じた健康の保持・増進と、次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達を促すために、母性看護が果たす役割と課題について学ぶ機会とした.
マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	2014年04月01日 ～ 現在に至る	妊娠各期における対象の身体的・心理・社会的情報を統合し、助産診断に基づく保健指導、ケア計画立案、実施・評価という一連の過程を踏まえ、対象とその家族への理解を深め、必要な知識・技術を習得する場とした。さらに妊婦およびその家族とのコミュニケーションについて学ぶ機会とした。□
マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	2014年04月01日 ～ 現在に至る	正常経過にある産婦および胎児の健康状態、分娩進行状況、心理社会的情報を統合・判断し、分娩介助までの一連の過程を安全に行うための知識・技術を習得する機会とした。加えて、出生直後の新生児の観察と基本的ケアを学ぶ場とした。
マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	2014年04月01日 ～ 現在に至る	産褥期にある対象と新生児の助産過程の展開により、対象への理解を深め、必要な知識・技術について習得する場とした。また対象に応じた保健指導内容について学ぶ機会とした。□
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
千歳市教育委員会主催　すこやか子育て講座　講師	2011年10月01日 ～ 2011年10月31日	千歳市教育委員会主催　すこやか子育て講座「子どもとゆっくり向き合うために」を2～3歳及び未就学児の子どもをもつ母親約40名を対象に行った. コミュニケーションにおいて重要な「聴くこと」の大切さを中心に説明し，子どもとの良好なコミュニケーションを図るためのきっかけづくりとし，さらに母親の支えあいの場を作る機会とした.

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の 名　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
妊娠中の精神科病棟看護師に関する倫理―母性領域におけるコンサルテーション一事例―.		2012年05月01日	第５回日本看護倫理学会発表 一般演題　第4群　4-7 （学会集録集の抄録に掲載）		

Ⅲ　学会等および社会における主な活動

Ⅴ　教育研究等環境

1　専任教員の教育・研究業績

（表18）

所属　助産研究科	職名　助教	氏名　三浦 恵津子	大学院における研究指導担当資格の有無　（有）

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
マタニティサイクル助産ケアⅢ	2015年04月 ～ 2016年03月	退院後の褥婦の生活についてのＣＤを活用し、実習での退院指導に役立てた。
マタニティサイクル助産ケアⅠ	2015年04月 ～ 2015年03月	妊婦健診の演習では、妊婦の教材を活用しレオポルド触診法や腹囲測定などを実践し、実習に役立てた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		

Ⅱ　研究活動

著書・論文等の名　　称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ　学会等および社会における主な活動	
2015年04月 ～ 現在に至る	日本母性衛生学会会員 全国助産師教育協議会会員 日本助産師会会員 日本助産学会会員 北海道母性衛生学会会員